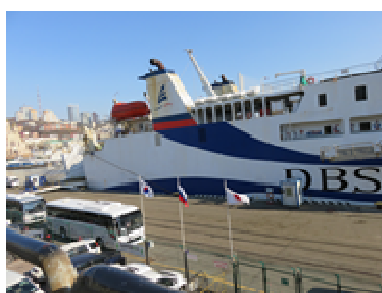
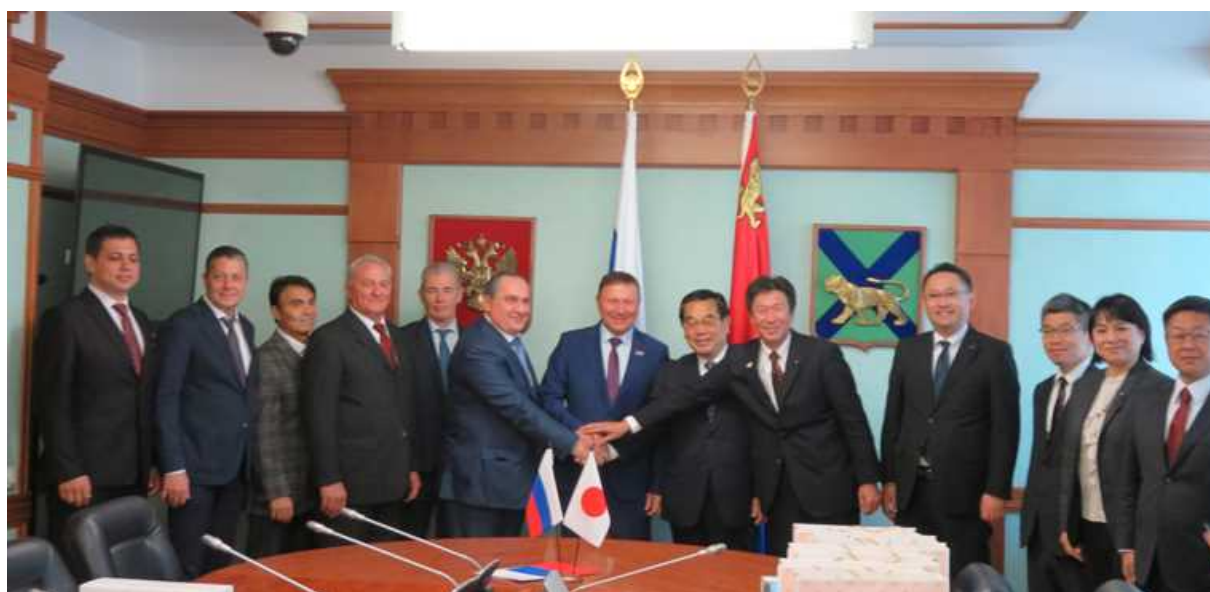


# 令和元年度 鳥取県議会ロシア沿海地方調査団 報告書

〔令和元年11月4日（月）～8日（金）〕



鳥取県議会

## 1 訪問日程及び訪問先

令和元年11月4日（月）～8日（金）

ロシア連邦沿海地方

※詳細は「4 日程表」のとおり

## 2 訪問団メンバー

団長	斉木 正一 議員	団員	藤井 一博 議員
副団長	浜田 一哉 議員		西村 弥子 議員
秘書長	松田 正 議員		安田 由毅 議員
<随行者>	議会事務局 調査課 課長補佐		鳥飼 敏博
	総務課 係長		田中 亜由美

## 3 所感及び県政に対する提言

鳥取県は以前から中国、ロシア、北朝鮮の国境が集中する豆満江の開発に注目し、同エリアを経由した物流ルートが日本海側ではほとんどないため、本県の境港を拠点にした物流ルートの策定に取り組んでおり、平成30年度からは、境港から韓国東海市を経由してウラジオストク港をつないでいるDBSクルーズフェリーを活用し、中国吉林省までの物流ルートのトライアル事業に取り組んでいるところである。

今回のロシア連邦沿海地方での調査は、トライアルルートの開拓の可能性について、その経由地として考えているザルビノ港を所管する沿海地方や最大港湾のあるウラジオストク市を訪問し、関係者からの情報交換や現場視察を行うことを目的に行った。

あわせて、令和2年度に友好交流協定締結から10周年を迎える沿海地方との交流の継続について確認するため、沿海地方議会議長を表敬した。

はじめに、DBSクルーズフェリーの活用についての所感を述べる。

まず、ザルビノ港については、現地での認識がかなり低いことがうかがえた。同港はGTI（広域図們江開発計画）の構想に沿った箇所でもあり、2000年には吉林省琿春市（中国）から陸路輸送し同港を経て江原道東草市（韓国）に到着する貨客水陸連携輸送航路があり、また、2015年には短期ではあったが京都府が、舞鶴港から東草を経由して同港を結ぶ輸送ルートを実施したこともあるなど、全くの新規路線ではないが、日本国総領事館においては同港を物流に活用することについての認識がなかったようであった。

さらに、ロシア極東地域の港湾整備を手掛ける極東港湾研究所からは、以前には、同港の開発に関わっていた企業もあったが、現在のところ、物流拠点とするような計画は聞いていないとのこと。仮にあったとしても継続していただけるだけの貨物量が確保できるか疑問だ、との意見があった。しかし、最近、ロシア国内の農産物の生産が増えつつあり、中国への輸出が始まれば同港の活用も考えられなくはない。ただ、不安要素として、ウラジオストク市で今年開催された東方経済フォーラムにおいて、同港で石炭を扱う計画があるとの話題があった。石炭と穀物を並行して扱うことは望ましくないため、やはり同港の活用は厳しいのではないかと、この見解であった。

これらのことから、残念ながらDBSを活用した物流ルートでの同港の活用は適当ではなく、ウラジオストク港を活用し陸路輸送する方法が現実的のようである。

DBSクルーズフェリーは訪問した先々での評価は高く、ポテンシャルもあるとの意見が多か

った。これは、訪問先が本県と関連している機関なので多少のリップサービスもあるだろうが、様々なポジティブな提案もいただき、調査団としても大いに認識を新たにした。

日本国総領事館からは、極東地域では日本の日用雑貨への人気があり、中国・韓国の商品と比べて価格が高くても購入していく市民が一定程度いるので、日用雑貨はどうか、という提案があった。さらに、元々ロシア極東では東アジア圏の食文化が入り込んでいるのだが、最近、日本酒が飲みやすく、おいしいと関心が増えつつあるので、和食と地酒、県産ワインも狙いどころである、とのアドバイスもいただいた。

この点については、スーパーマーケットの商品を確認してみると、やはり生鮮食料品以外の日用雑貨は圧倒的に中国・韓国商品を多く目にしたのだが、その中でも、日本商品も思った以上に扱われていた。また、郵便局に併設した日用雑貨ショップでは、比較的、日本商品の方が多いように感じられ、極東に在住する日本人の人数がそうは多くないことを勘案すると、日本商品への人気の高さがうかがえた。

北海道総合商事(株)が母体となっているビジネスサポートセンターからは、北海道産玉ねぎへの人気があるという話を聞いた。安いが安全面に信頼の低い中国産野菜より、高くても安全な日本産野菜を購入したいという富裕層もいるとのことであった。関税や検疫などのハードルがあるものの、商品が良ければ需要はあるということで、本県にも可能性は十分あると感じた。

この他、沿海地方政府議会では、以前から主要輸出商品だった水産物の缶詰や、最近生産が増えてきているトウモロコシや大豆、牧草などの農産物の輸出に活用できないか、といった提案や、マツダソラーズからは、現在、広島港から輸送している自動車部品の一部を、自然災害時の代替ルートの観点から、日常的なDBSクルーズフェリーの活用も検討してみたい、という回答もあった。

DBSクルーズフェリーは、この調査後の11月28日から2月末まで運休となってしまった。再運航に向けては官民あげて、しっかりと働きかけていかなければならないが、今の段階から再開後の新たな貨物の確保について準備を進めておく必要がある。

また、本県だけが努力するのではなく、GTIにかかわる国や地域との繋がりも活かし、特にロシアと韓国、ロシアと鳥取県との物流や乗船客の増加に向けて、商品の展示会を開催するなどの市場調査を行い、継続できて効果の高い貨物を検討する機会を持つことも望まれる。

いずれにせよ、国同士の関係で地方間の繋がりが左右されることがないように、力強い民間の交流の継続が大切だという認識も、沿海地方議会と確認しあったところである。

次に、ロシアからのインバウンドについての所感を述べる。

ロシアでは、ロシア当局が指定した都市限定ではあるが、インターネットで日本からの査証が無料申請できるe-VISAの制度が始まっている。また、航空路線も成田空港～ウラジオストク空港間を1日2便(オーロラ航空、シベリア航空)が就航しており、日本からわずか2時間半で渡航できるようになったため日本人観光客数は徐々に増加している。更に、日本航空が2020年2月から、全日空が翌3月から同航空路線をスタートさせるとの発表もあり、日本人観光客誘致に向けて大いに期待している様子がうかがえた。

反対に、ロシアからの本県への誘客についてであるが、RUSAPIでの聞き取りからは、本県には観光客にとって魅力的な観光素材は豊富にあるものの、相当な仕掛けを検討しないと実際の誘客には容易につながらないことを感じた。

海外からの観光客が我が国を訪れてまず向かうのはネームバリューのある東京、京都、大阪といったゴールデンルートであり、地方へ関心が向くのはリピーターである。現代の旅行者はインターネットで旅行前に多くの情報を得ているので、いかに個性的で魅力的な情報を旅行者に届けられるかが課題である。しかも、各都道府県それぞれが似たような素材（自然が豊か、おいしい食材、歴史文化など）を売りにしており、その中から本県を選択してもらうポイントが必要である。

例えば、ロシア人は和牛と言えば神戸牛しか浮ばないが、鳥取牛が日本一になったことをPRすれば、神戸牛よりおいしい鳥取牛を産地で食べてみたいと思うだろう。ただ単に鳥取牛が日本一になったという情報だけでなく、日本一の鳥取牛とそれにマッチした日本酒や県産ワインと一緒に味わえるレストランが鳥取にある、というストーリー付きで紹介すれば、より選択されやすくなる。

また、ロシア人は少々水温が低くても海水浴を楽しむので、日本のオフシーズンの海水浴場を活用するツアーも考えることができる。こういったロシア人の特性をよく把握した商品開発も必要であるとアドバイスをいただいた。

更に、航空会社との連携である。

インバウンドを考える上で、航空会社は最も重要なパートナーで、良好な関係を維持することは最も重要である。

旅行先を検討する際に、旅行費用の安さは選択する際の大きな要素となるであろう。本県の空港に就航している全日空は来年3月から成田空港～ウラジオストク空港線をスタートさせるが、成田空港から同じ全日空をセットで組んでもらえば、価格が抑えられる。最近の旅行者はインターネットで航空チケットを取得することが多くなっており、その時に鳥取や米子を選択してもらう工夫が求められる。羽田空港～鳥取空港間、羽田空港～米子空港間は航空運賃が他の国内線よりも高いのであるから、なおさら、他地域並みに運賃を設定する方法、何かの特典が付く方法、あるいは、ウラジオストク市内の全日空の広告に本県の映像を使う方法などの工夫を、他県に先んじて全日空と協議をするべきである。

次に、大学の交流について所感を述べる。

太平洋国立医科大学では、鳥取大学医学部と教員や学生の相互研修派遣を続けており、当該大学で研修に参加した学生と意見交換を行った。

鳥取大学での研修は非常に刺激的であったようで、鳥取大学のハイテク機材、医師の患者への接し方などに関心があったようだ。2週間の期間は短かった、もっと多くのことを学びたかった、という意見もあった。

近々、医科大学でもドクターヘリを配備し衛生チームを創設するそうで、我が国とは救急医療制度に違いはあるものの、本県のドクターヘリや救急車を実際に見学し、いづらか参考になったようでもあった。

医学の研修だけでなく、鳥取大学の学生とももう少し交流をしたかった、という意見が多かった。同じ分野を志す青年がともに学ぶことは非常に有意義なことであり、学生からは特に鳥取大学医学部への感謝の言葉をいただいた。大学同士の交流事業ではあるが、鳥取大学医学部の向上は本県としても望んでいることであり、可能な支援があれば積極的に協力するべきである。

極東連邦大学テクノパークは、いわば、ミニシリコンバレーのようなものであった。国主導で

資金投資しており、参加企業も70社を超える。学生も企業の研究テーマに加わり、実践的な研究に関わることができるほか、企業側にとっても即戦力の人材を育成しながら確保できることもあり、産官学の連携がうまくできているシステムである。

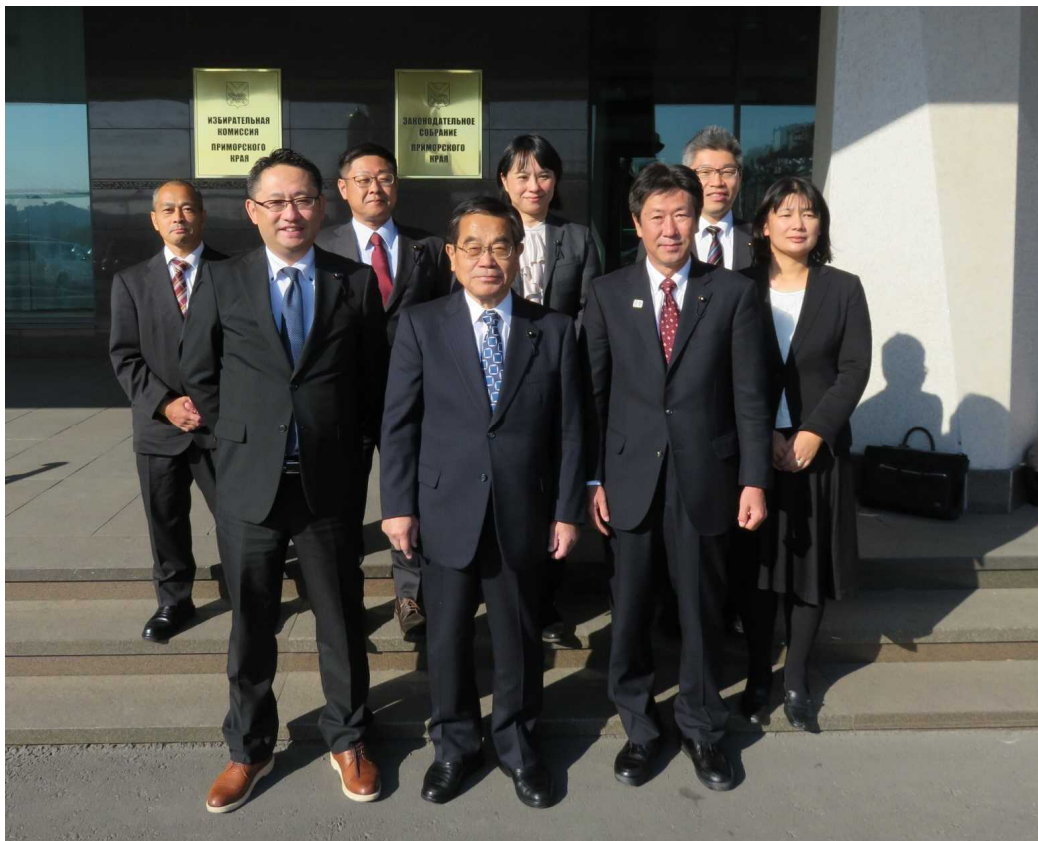
短時間の調査で全体像の把握は十分ではなかったが、産官学連携は日本でも大なり小なり行われている。本県の大学では産官学の連携の程度は高くはないと思われるが、極東連邦大学テクノパークの体制は、県内大学でも参考になる部分もあるのではないかと感じた。

最後に、沿海地方議会との交流についてである。

本県と沿海地方とは1991年から交流を開始し、2010年の友好交流協定締結から来年で10年目を迎える。その間、青少年のスポーツ交流をはじめとして、最近では幅広い分野での交流が展開されてきており、ロリク・アレクサンダ議長からも観光や交易、文化やスポーツなど、幅広く交流していきたい、との発言があった。

また、ブロワレツ・アンドレイ外務省ウラジオストク市代表からも、東方経済フォーラムでもあるように両国首脳の関係は今が最も良く、ロシアとしても日本との関係に力を入れているところであり、地方政府同士も交流を深めてほしい、との発言があった。

市民同士の交流も大切だが、議員同士の交流もするべきではないか、との話題が沿海地方議会側からあげられた。前述したように令和2年度は友好交流協定締結10周年の年であり、これを記念して知事団の相互訪問とセレモニーが予定されているようである。この機会に議会同士の交流を検討してもよいのではないかと、という意見もあった。DBSクルーズフェリーの定着には韓国も当然のことだが、沿海地方とのつながりも極めて重要である。3地方を結ぶこの航路を確実なものとするためにも、議員間の信頼を厚くし、ともに応援できる関係を築くべきであろうと感じたところである。



鳥取県議会ロシア沿海地方調査団員（沿海地方庁舎前）

#### 4 日程表

月 日	日 程		移動手段	宿泊先
11月4日 (月)	7:05	鳥取空港発 (→8:20 羽田空港着)	ANA292便	ウラジオストク 市内
	7:20	米子空港発 (→8:40 羽田空港着)	ANA382便	
	13:15	成田空港発 (→17:05 ウラジオストク空港着)	S76282便	
	20:00	ホテル着	中型バス	
11月5日 (火)	9:00	ホテル発 移動	中型バス	ウラジオストク 市内
	9:30	沿海地方政府議会表敬	↓	
	11:30	在ウラジオストク日本国総領事館表敬訪問	↓	
			↓	
	13:30	郵便局の日用品販売を視察	徒歩	
	14:00	マリンステーション視察	↓	
	14:30	ロシア日本通運合同会社ウラジオストク営業所調査	中型バス	
			↓	
19:00	沿海地方議会主催歓迎レセプション	↓		
21:00	ホテル着			
11月6日 (水)	9:00	ホテル発 移動	中型バス	ウラジオストク 市内
	9:30	極東港湾研究所調査	↓	
	11:00	ウラジオストクビジネスサポートセンター訪問	徒歩 中型バス	
	14:00	太平洋国立医科大学視察	↓	
	17:00	ホテル着	↓	
11月7日 (木)	9:00	ホテル発 移動	中型バス	ウラジオストク 市内
	9:30	広告代理店RUSAPAIとの意見交換	↓	
	11:00	極東連邦大学テクノパーク調査	↓	
			↓	
	14:00	マツダソラーズ現地工場調査	↓	
	18:00	鳥取県議会主催、在ウラジオストク日本国総領事館との意見交換会	↓	
	20:00	ホテル着	タクシー	
11月8日 (金)	9:30	ホテル発	中型バス	
	11:00	アルチョム市のシベリア抑留者慰霊碑に献花	↓	
	12:30	ウラジオストク空港着	↓	
	14:50	ウラジオストク空港発 (→17:00 成田空港着)	S76281便	
	19:20	羽田空港発 (→20:35 鳥取空港着)	ANA299便	
	20:05	羽田空港発 (→21:25 米子空港着)	ANA389便	

## 5 訪問先の概要

【令和元年11月5日（火）】

### （2-1）沿海地方議会

〔目的〕 鳥取県が友好交流を行っている沿海地方議会の議長及び議員を表敬し、交流事業の成果の確認や評価、今後の交流に向けた意見交換を行う。

〔応対者〕 ロリク・アレクサンダ議長

テキエフ・ジャンブラット議員（地方政策、法的保障、国際交流委員会会長）

ブロワレツ・アンドレイ氏（外務省ウラジオストク市代表）

アホヤン・ガルスト議員（予算・税対策、金融資源委員会会長）

ローシ・アレクサンダ議員（地方政策、法的保障、国際交流委員会副会長）

シェルバコフ・アレクサンダ議員

ゴンチャルック・ウラジミル議会事務局長

スタリチコフ・アレクセイ国際交流局長 他、通訳等事務局職員

### 【主な沿海地方側の発言】

● 沿海地方は現在、新潟県、富山県、島根県をはじめ、その他のいくつかの国の地域とも交流しているが、鳥取県とは長年に渡り多くの交流を続けてきた。大変感謝している。2020年は鳥取県と沿海地方が友好交流協定締結を行って10年となる。また、同じタイミングで日本とロシアの地域・姉妹都市交流年が位置づけられている。ぜひ様々な交流を行い、相互理解が深まることを期待したい。

● 沿海地方は現在、観光に力を入れている。ウラジオストク市は文化と歴史、観光名所が豊富である。日本から沿海地方への観光は現在、追い風になっている。2017年から、沿海地方に限って日本からの査証をインターネットで簡単に取得できることとした。

また、来年3月下旬ごろからは、JALが毎日、ANAは週2便、成田空港とウラジオストク空港間を就航する。さらにDBSクルーズフェリーは鳥取県とウラジオストク港を往復している。ぜひ、日本からたくさん来てもらいたい。

● 長らく青少年交流やスポーツ交流も続いている。議会レベルの定期的な交流も行うべきではないかと思っている。今年度は北東アジア地域地方議会議長フォーラムを沿海地方で開催し、議員レベルの交流を深めた。ぜひ今後は、鳥取県からも参加していただきたい。

● ウラジオストク港でも大型クルーズ船の寄港が増えてきた。去年は約30回で今年度は昨年を上回るペースで進んでいる。

沿海地方は、トウモロコシ、大豆、牧草、といった農産物の輸出を検討しているところである。DBSクルーズフェリーの利用拡大の話は非常に興味深かった。

● ウラジオストク市では東方経済フォーラムがここ数年開催されており、日本、ロシアの首脳が毎年集っている。そのため、インフラの整備やビジネスの拠点となるようIT、テクノロジー関連の投資も増えてきた。また、港湾や大学の施設など、早いスピードで整備を進めている。

政府、外務省にも強く働きかけて、更なる査証の緩和や交通手段の整備、観光情報の発信など、特に日ロ関係に力を入れて進めていきたいと考えている。

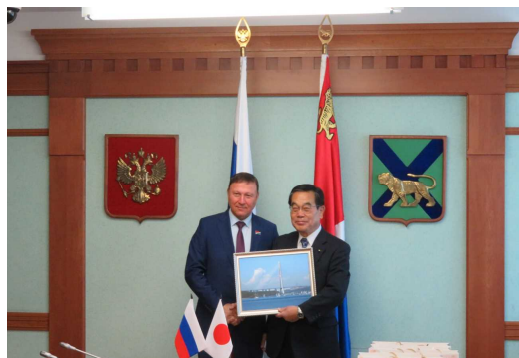
● 鳥取県との信頼関係は、今までの交流があつてこそ。これからも交流を続けていきたい。

## 【鳥取県からの説明】

- 境港では昨年、大型クルーズ船が50回寄港し、来年4月に新ターミナルが完成すると、年間100回の大型船の寄港が可能になることを説明した。
- 北東アジア地域地方議会議長フォーラムでは、ロリク議長から再三招待をいただいたが、議員の選挙や議会日程もあり不参加としたことを詫びた。



意見交換会の様子



ロリク議長と

## (2-2) 在ウラジオストク日本国総領事館

〔目的〕 日本国総領事館を訪問し、沿海地方の経済動向の説明を受けるとともに、沿海地方における鳥取県の取り組みを説明し、今後の事業に向けた情報交換を行う。

〔対応者〕 中村耕一郎 総領事、櫻木雄介 副領事（本県から出向）、野田好孝 領事

## 【主な説明内容】

- ロシアにおける拠点としては、モスクワ市とウラジオストク市になりつつある。ウラジオストク市は5年前から東方経済フォーラムが開催され、各国首脳が毎年集まる場所となった。これらのことから、ロシア極東における中心拠点はハバロフスク市からウラジオストク市に移っている。

極東は長らく辺境の地だった。ソ連体制が解かれ、各州が自力開発になったが、プーチン政権になって、国家主導で極東開発、資本投資に動き始めた。

2012年にウラジオストク市でAPECが開催され、それに合わせて金角大橋やルースキー大橋などのインフラ整備や会場となる極東連邦大学が整備されるなど、街全体の整備が進んでいる。

- 首脳だけでなく、自治体の首長クラスの訪問も盛んになった。最近では鳥取県のほか、北海道、新潟県、兵庫県知事の訪問があった。どこも観光客誘致、物流拡大が狙い。

鳥取県は境港からのDBSクルーズフェリーが韓国経由で就航していることは承知している。非常に貴重な航路であり、ぜひとも応援したい。

- JALが来年2月から、ANAが翌3月から成田空港～ウラジオストク空港便を就航させることが決まっている。更なる人的交流が見込まれるが、成田空港以外の地方空港からの就航も期待したい。

主な港はウラジオストクとナホトカであるが、物流、漁獲ともウラジオストク港が中心。同港はマリンステーション（海の駅）がある商業港と、湾の反対側に漁港とがあるが、最近では漁港でも商品を扱うほど物流の占める割合が高くなっている。

- 最近、シベリア鉄道による輸送が見直されている。船便だと日本からヨーロッパまで40



日を要するが、日本から船でウラジオストクに送り、その後シベリア鉄道を利用しても約半分の日数で送ることができる。シベリア鉄道の信頼度も上がっている。

- 市内ではスーパーで日本食も身近に扱われており、一通りのものは手に入れることができるが、やはり中国や韓国の商品の占める割合が断然高い。しかし、中国産への不安から、価格が高くても日本産を求める一定の層もいる。

特に野菜はほとんど中国産である。日本産は日持ちがしないのと価格が高いためほとんど輸出が成立しない。しかし、最近は野菜の自国栽培が始まっている。サハ共和国では、日本の企業（北海道総合商事（株））と提携して野菜のハウス栽培をスタートした。

- サハ共和国では、本県境港市の三光（株）グループと廃棄物処理プラントの輸出について、2019年の東方経済フォーラムの際に提携している。今までロシアでは廃棄物処理への関心が低かったが、世界的な世論の高まりや指摘から近年、分別リサイクルに取り組み始めた。
- ロシア経済は一時期の落ち込みから回復しつつあるが、沿海地方は全体の人口は減少傾向にある。人口の構成では、中国籍の増加が認められる。

沿海地方では人口減や経済振興の対策として、500万ルーブル以上の投資を伴う新規事業には免税の優遇措置を行い、約1,200社ほどが対象となっている。また、ロシアでは土地は国家所有であるが、極東に限り1人1ヘクタールを無償配布する政策を行うことで、極東への国民の移住を図っている。

- 北極海の氷が解けて北極海を通過する航路の可能性が出てきた。そうするとインド洋を経由せず、ほぼロシアのみを通る新たな海の物流ルートが注目を集めることになる。

### 【主な質疑】（○は本県）

- 我々はDBSクルーズフェリーを利用してザルビノ港を経由し、中国北東部と物流ルートを考えている。
- ザルビノ港の件は初耳。こちらでも同港の話題は聞かない。機会があれば確認しておきたい。
- これからはウラジオストク港かナホトカ港ということか。
- その通り。ナホトカ港よりウラジオストク港ではあるが、現在その間の道路を整備しているところ。当面はウラジオストク港だろう。
- 貨客船を活用したロシアとの物流でターゲットになりそうなものはどうか。
- 沿海地方のコジェミャコ知事は今、観光に力を入れている。治安も断然良くなった。ウラジオストク市は観光地や文化財が豊富で、特に中国、韓国からの団体観光客が目立つ。これは直行便の要素が高いが、DBSクルーズフェリーも選択肢になり得るのではないかと。知事は水産加工物、木材、石炭の輸出もしたいと思っている。
- また、日本からの輸入では中古車、自動車部品が多い。輸入車の8割以上を日本車が占めている。ロシアは自国産業保護のため、関税率を2008年に引き上げたことにより、輸入台数はピーク時の1割程度になっているが、それでも日本車が求められている。ウラジオストク市内は路面電車やバスの運行がされているが、市街地になると交通インフラがよくないため、自家用車の所有は欠かせない。
- ロシアでは郵便局に日用品ショップが併設されている。中国、韓国商品もあるが日本商品も根強い人気がある。価格は高めだがよく売られている。
- ロシアから見た鳥取県や境港はどんな印象か。
- こちらはボタンが人気で、隣の島根県の大根島の方が名が通っている。やはり何かメイ

ンとなるものでネームバリューを高めないと知名度は上がらない。

最近、日本酒に人気があり、来週は岩手、山口の酒蔵がイベントを行う。総領事館では来客に各地の地酒のひとつに千代むすびも振る舞っているが、日本酒の楽しみ方も含めた知らせる努力が必要であろう。

- ロシア人は日本の地方の観光地にも関心が高い。鳥取県の魅力の他県との違いをどう伝えるかであろう。
- 極東でのブドウの生産やワイン酒造はどうか。
- 沿海地方でも生産されているが、市場に出回ってはいない。ロシア国内ではグラスノダールやジョージア産が占めている。

ウラジオストクでは、海産物、タイガの山のもの（肉やキノコなど）など食材が割に豊富で、ロシア食以外に中華や和食にも抵抗感が少ない。日本の酒やワインも食材と合わせた楽しみ方を伝えると受け入れられやすいのではないかと。

- スーパーに寄ったが、外国産の野菜が多かった。鳥取県は梨やスイカを輸出しているが、フルーツはどうか。
- 例えば玉ねぎは南アフリカやニュージーランドから輸入しているが、北海道産が並ぶと人気が高く、すぐに売り切れる。  
フルーツも関心があるが、価格が高いため購買につながるかどうか。富裕層は国内で契約栽培しているケースもあると聞く。



意見交換会の様子



中村総領事と

### (2-3) 郵便局の日用品販売店舗の視察

〔目的〕 ロシア国内の郵便局約42,000店舗のうち6,000を超える店舗に併設されている日用品ショップでは、商品の一部がDBSクルーズフェリーを利用して日本から輸入していることから、店舗の状況を視察した。

- 日用品だけでなく、雑誌や絵本などの書籍、子供用の玩具、家庭用電化製品なども陳列しており、イメージは日本のコンビニエンスストアのようなもの。あまり惣菜類等の品数は多くなかった。
- 「Made in Japan」のコーナーが設置してあり、洗剤や日用雑貨、調理器具などの商品が陳列してあった。特別、日本でしか生産していないものでもなく、日本商品に人気があることがうかがえる。



右は郵便局、左は販売店舗の入口



郵便局の日用販売品店舗



ショップ内は日用品が多数並ぶ



日本商品のコーナー

#### (2-4) マリンステーション及びロシア日本通運合同会社ウラジオストック営業所

〔目的〕 ウラジオストック港とシベリア鉄道を利用した物流事業を手掛ける日本通運（株）のロシア合同会社を訪問し、DBSクルーズフェリーが接岸するフェリーターミナルの現状や今後の物流事業に向けて情報交換を行う。

冒頭、マリンステーション（DBSクルーズフェリーが接岸するウラジオストック港のフェリーターミナル）を案内していただいた。ちょうど前日にDBSクルーズフェリーが到着し、荷下ろしの最中であり、船内からコンテナや車両が運び出されていた。

〔応対者〕 エフゲニア・ザハロワ ウラジオストック支店マネージャー

#### 【主な説明内容】

- 当合同会社はモスクワに本社があり、ウラジオストック営業所は職員が3人で、ウラジオストックの他、ハバロフスク、ユジノサハリンスクの事業も担当している。

扱う輸送手段は航空、海上、鉄道で、これらを複合した輸送も行っている。日本や中国から海上や陸上で運び、ウラジオストックからはシベリア鉄道を利用する方法があり、モスクワ向けの鉄道輸送の極東の出発地点となっている。極東内ではトラックによる陸上輸送も行う。

現在は自動車メーカーの部品や製品が主流。原材料などの資材は扱わず、コンテナを使用した輸送のみ行っている。

- 日通はウラジオストック空港からの航空輸送のライセンスも所有しており、航空便を使った輸送も可能。ただし、鉄道や海上と比べて小ロットとなる。

ロシアは輸出入通関の手続き書類がかなり煩雑なので、日通が荷主の代行をするサービスも行っている。

- ウラジオストク港はフェリーが接岸するフェリーターミナルと商業港、漁港とあるが、最近は物流量が増加し漁港でも荷揚げしているため、税関は商業港側と漁港側の2カ所にある。しかし、植物検疫、商品倉庫、大型クレーンは商業港側にあり、それらが必要な場合は、商業港側に制限される。

また、マリンステーションとウラジオストク駅は隣接しているため、鉄道輸送を利用しやすい。

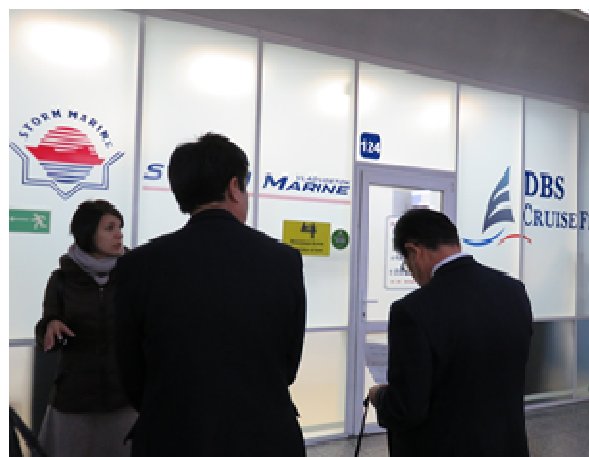
- 鉄道輸送を使うと、ウラジオストクからモスクワまで12日で輸送でき、日本からの海上輸送を含めても20日程度で送ることができる。日本から船便でヨーロッパへ輸送すると、2か月近くかかるので、大幅な短縮が可能となる。

### 【主な質疑】（〇は本県）

- DBSクルーズフェリーは貨物も一定の量を確保しているが、まだキャパシティがある。何か有効な情報がないか。
- 扱っている自動車製品はマツダがメイン。マツダとのつながりが出来れば可能か。ロシアは野菜の輸入が多いので、農作物の輸送もポテンシャルがありそうだ。ただ、いくつか相談を受けてはいるが、中国、韓国との価格比較で実現が難しい。



DBSクルーズフェリーが停泊中



マリンステーション



意見交換会の様子



ウラジオストク営業所職員と

## 【令和元年11月6日（水）】

### （3-1）極東港湾研究所

〔目的〕 ウラジオストク港をはじめ、沿海地方の港湾整備計画を行う極東港湾研究所を訪問し、ザルビノ港を経由した物流の可能性や他の沿海地方の港湾の活用について知見を得る。

〔応対者〕 ノヴォセルツェフ・エウゲー副所長

#### 【主な説明内容】

- DBSクルーズフェリーはポテンシャルがあり期待ができる。ロシア交通省は中国政府と中露間の道路の整備計画を進めている。ウラジオストク市から吉林省渾春市へ向けた陸路輸送の向上が進みそうだ。また、鉄道についても整備を進めている。  
中国とは以前は石炭、木材の輸出が中心だったが、最近ではコンテナ輸送が増えてきている。今後も物流量は拡大しそうだ。韓国との航路は、DBS以外にもいくつかある。  
中国からは観光客がとても多く、韓国からも多い。人の動きのあるところとの取引は自然と活発になる。
- 日本からも2016年にできたマリンスキー劇場へバレエやオペラを鑑賞に来る観光客が増えてきている。ビザ取得の手続きが緩和されたし、来年からはJALとANAの直行便が就航を開始する。観光客の増加に合わせて経済交流の拡大にも期待できるのではないかと。
- 沿海地方も観光客の受け入れに取り組んでいる。現在、ウラジオストク港は大型クルーズ船が1隻しか停泊できないが、2台の接岸が可能となるよう現在、政府に申請中。許可が出れば年間30隻の入港が可能になると思う。  
ただ、入管施設が手狭なので、そういった附属施設の整備も必要となってくる。整備が進めば、DBS利用客にも利便性が高まる。
- この研究所は、現在、サハリンの商業港の整備に関わっている。サハリンは北海道との航路があるものの港湾が小さく、商業港で観光客を受け入れている。港湾の整備を進め、北海道との経済拡大も見込んでいる。さらに鉄道の整備が進めば新たな物流ルートの幅が広がりそうだ。

#### 【主な質疑】（○は本県）

- ザルビノ港を活用して吉林省へ貨物を陸路輸送する計画の可能性はどうか。
- ザルビノ港はスーパグループが関わっていた。一時は同港と吉林省の間で2千万トンの輸送を扱う計画でいたが、今はどうだろうか。ただ、同港にそれだけの需要があるかは疑問。  
中国からは穀物や大豆の輸入が増えてきている。同港でそれらを扱う検討をしたこともあった。最近ではロシアでも農産物の生産が進んでおり、輸出も考えられる。  
その場合は、道路、鉄道など周辺のインフラの再整備や港湾整備を行ってキャパシティを広げ、安定的に貨物が取り扱える港にしないと行けない。  
ただ、今のところ、中国との商談は継続しているものの成立はしていないと聞いている。  
なお、東方経済フォーラムでは、同港で石炭を扱う計画が上がっていると言っていた。石炭を扱うとなると、同じ港で食物は扱えない。付近の海水浴場にも影響が大きいし、私は反対している。
- DBSに可能性のある貨物は何か。
- 日本や韓国にどんな商品があるのか、よくは承知していないが、食料や日用雑貨だろうか。日本や韓国の商品は品質が良いので、市内の店舗でたくさん見かける。

よく市場調査をしてみる事が大切。中国はよく展示会などを開催してニーズ把握を行っているので、同様の取り組みが良いのではないかと。



意見交換会の様子



ノヴォセルツェフ・エウゲー副所長と

### (3-2) ビジネスサポートセンター

〔目的〕 鳥取県がウラジオストク市に設置するビジネスサポートセンターを訪問し、ロシアの経済状態や今後の動向、他県の取り組み状況などの情報交換を行う。

また、センターの運営を委託しているペガスHC（北海道総合商事（株））が展開する郵便局ショップなどの取り組みについて、鳥取県との関りの可能性を検討する。

〔応対者〕 ペガスHC 山岸健男副社長

#### 【主な説明内容】

- ペガスHCは北海道銀行がベースになっている。元々、北海道の商品をロシアに輸出しようとしたが、外国企業に対しては税制がかなり厳しいので、ペガスHCという現地法人を立ち上げて、3年前から事業を行っている。  
北海道の玉ねぎを輸入している。ハバロフスクのスーパーでは、中国産の2倍の値段で販売しているが、人気が高く売り切れる。冬はニュージーランド産と販売時期を棲み分けしている。  
ロシアでも野菜の栽培に取り組み始めた。サハ共和国では野菜のハウス栽培を始めている。その業者との仲介をペガスHCが行った。
- ロシアの郵便事業の民営化に伴って、郵便局内に日用雑貨や食品などを販売するショップを併設。コンビニ的な事業を6,000以上の店舗で始めた。以前のロシアでは郵便行政への信頼は高くなかったが、市民の利用が定着している。  
郵便局で扱う日本の商品はペガスHCが日本から輸入し、シベリア鉄道などを利用してロシア国内の郵便局へ届けている。日本からの輸入では、DBS航路も一部利用している。
- ロシアは自国産業や企業への保護意識が強く、外国からの輸入品や外国企業に対しては関税を高くしたり、制限を加えたり、煩雑な書類を求めることが多い。日本の食品、商品は人気が高く品薄状態だが、船便のため賞味期限が短くなってしまったり、高い関税で販売価格を上げざるをえない欠点がある。
- ロシアは現在、観光業に力を入れている。そのため、中国、韓国からの観光客はかなり増えている。日本からの観光客も中国、韓国の比ではないが増えている。来年2月にはJAL、翌3月にはANAが成田からの直行便を就航させるし、e-VISAの制度ができ、手軽にビザ取得ができるようになった。日本人観光客の増加の追い風になると期待している。

- 日本の店舗も増えてきている。ロシアの補助事業を活用して居酒屋「炎」がオープンしている。米以外は地元産の食材を使用している。総領事館もイベント会場などに利用している。

札幌ラーメン店「麺や琥張玖」は麺を北海道から取り寄せている。日本人の店長がいたときは人気だったが、スタッフがロシア人だけになると売り上げが減り、ラーメンの値段も上げざるを得ない状況。

ウラジオストクはアジアの料理文化も入っていて、和食、中華、洋食が受け入れられるが、モスクワは市民の所得も高く、ヨーロッパ文化が中心。以前、丸亀製麺が店舗を出したが、撤退している。今、牛丼の松屋やエンターテイメントのROUND 1がモスクワに店舗を出す計画がある。

ウラジオストク市内にアメリカ資本でホテルを建てる計画があったが頓挫し、その事業をホテルオークラが受け継いでいる。高級ホテルの不足感があったので、解消が期待できるのではないかと。

- 今年開催された東方経済フォーラムでは、境港の三光（株）がサハ共和国にゴミの選別機を輸出することがまとまった。ロシアでは事業を行うのに煩雑な書類を作成する必要があり、英語はほとんど通じないので、ペガスHCが仲介を行っている。

また、医療機器シミュレータのミコトテクノロジーがテスト参入することになった。

- ロシアでは、石油の産出量が不安定だし、世界情勢の影響を経済が受けやすいことからルーブルの価格が安定しないので、外国資本が入りづらい傾向にある。また、アメリカからの経済制裁を受けている分野もある。

○ 日本企業が進出する際に優遇制度はないのか。

- 極東では自動車産業に力を入れているので、自動車分野にはあるが、ロシアは制度が変わりやすいので注意が必要。ロシアの自動車産業は国内向けだが、モスクワで作ってもヨーロッパ車に費用、性能の面でも負けてしまうし、ウラジオストクで作っても、モスクワへの輸送代がかかる。

極東では中古の日本車の方が性能、信頼性が高いので人気があり、日本からの輸入経費も低く抑えられるので、市内は日本車が8割以上を占めている。

- ロシアでは、75%以上が国内資本の企業には消費税が免除される制度がある。また、外国産品には関税、付加価値税などが科せられ、外資もなかなか勝てない。いくら人気があって売れ行きが良くても、相当量の流通がないと、小ロットでは利益に繋がらない。

- 東方経済フォーラムで、官主導の経済交流が続いているが、国同士の前に民間交流がないと、利益優先では続かない。



意見交換会の様子



ペガスHC 山岸健男副社長と

### (3-3) 太平洋国立医科大学

[目的] 鳥取大学医学部が5年前から太平洋国立医科大学と教員と学生の相互研修派遣事業を行っており、事業の成果について確認するとともに、研修で来県した学生と面談し、本県への印象や今後の研修に向けた要望などを聞き取った。

[応対者] クズネツォフ・ウラジーミル国際交流担当副学長  
国際交流担当部長  
研修で来県した学生10名

#### 【主な説明内容】

- 太平洋医科大学は極東で一番大きな医科大で、職員・学生を含めて約4,500名が在籍する。医師、看護師、医療技術者、歯科医、軍医などを養成している。ロシア保健省との関りも強く、極東での医科教育の中心的存在となっている。  
海外の20大学と交流をしており、近く、国際交流学部を創設する。海外からの留学生も中国、韓国を中心にかなり多く、日本からも留学している。
- 鳥取大学との医学生交流は、非常にうまく進んでいる事業。毎年3名程度の学生を2週間派遣している。学生にも充実した研修になったようだ。鳥取大学の学生にも当大学の学内だけでなく医療現場をしっかりと見てほしいと考えている。
- 今年度で鳥取大学との5年間の契約期間が終了するので延長する。12月に鳥取大学を訪問し、調印する予定になっている。

#### 【主な学生の意見】

- 鳥取大学の感想は。
- 鳥取大学は機器がハイテクだと感じた。現場では、医師の患者に対するサービスのレベルが高いことに感心した。入院患者とどう接するのか、もう少し現場を経験したかった。
- 日本の救急制度はアメリカスタイルで、救急車は消防署に配備されている。ロシアは独立しているので、医師も乗車している。
- 鳥取県はドクターヘリを保有しているので、緊急移送の対応が素早いと思う。医科大学でも専用ヘリの整備を新たに考えているところ。2020年に衛生チームを配置する計画。
- 鳥取大学の医師や学生との交流は。
- 会話は英語で行った。英語が苦手な学生はポケトークを持参した。教授は丁寧に説明してくれたのでわかりやすかった。
- 学生とはそんなに違和感はなかったが、少しシャイなように感じた。ロシアの学生は積極的によく質問するが、鳥取大学の学生はほとんど質問をしなかった。もう少し学生同士の交流をする機会があれば親しくなれたと思う。
- 日本では、都会に医師が集中し、地方では医師不足が生じている。特にへき地では厳しい状況だが、ロシアはどうか。また、皆さんは卒業後、どこで勤務したいのか。
- 専攻する科にもよるが、ハイテク機器が次第に整備されつつあるので、やはり都会で技術を磨きたい希望はある。ただ、この医科大学でも学ぶことができるので、極東でも沿海地方での勤務を考えている。
- 日本でハイテク医療を学びたい。
- ロシアも地方は医師不足の傾向がある。自治体から支援金を出してもらおう制度があり、3年間地方で勤務するが、期間が過ぎると都会勤務するのが実態。大学などから地方へ医師を



派遣する制度も考えられている。

- 地方であれば医師が少ないので、1人で多くの医療科の経験を積むことができる。たくさん経験を積んで、次のステップを考えたい。
- (最後に代表の学生から感謝のあいさつがあった。) 鳥取大学での研修は、とても良い経験だった。日本の医療を知ることができ、大変良い刺激になった。鳥取大学の学生にとってもよい機会になっていると思う。チャンスを与えていただいたことに感謝するとともに、ぜひとも鳥取大学との交流事業を継続していただきたい。
- お役に立ったことはよかった。同じ道を志す若い世代が交流するのは素晴らしいこと。鳥取大学にもお伝えしたい。



研修で来県した学生と意見交換



太平洋医科大学実習室



研修で来県した学生と

## 【令和元年11月7日(木)】

### (4-1) RUSAPAI

〔目的〕 RUSAPAIは極東での観光宣伝事業を手掛けており、鳥取県が3年間国内プロモーションを委託したり、鳥取県にブロガーを招聘しメディア発信を行っていることから、鳥取県のポテンシャルや、今後につなげる課題について聞き取りを行う。

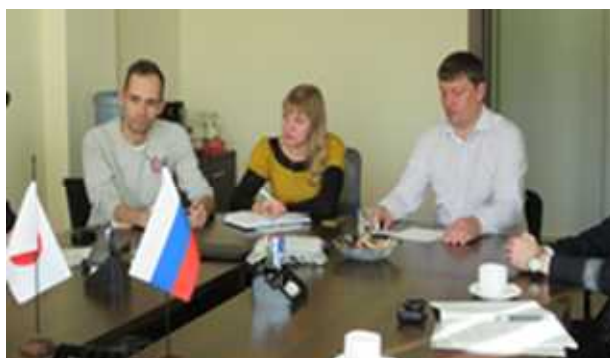
〔応対者〕 ポタペンコ・キリル社長、ポヴァルヒナ・アナスタシア国際関係マネージャー  
シュトクマン・コンスタンチン氏 (写真家)

## 【主な説明内容】

- 鳥取県とは、社長が経営するレストラン（ZUMA）のフェアで協力した関係がある。鳥取県とは観光以外にもレストランの繋がりでも考えたい。
- RUSAPAIは日本からの観光客誘致に協力している。来年のJAL、ANAの就航は大変期待しているところ。直行便の就航でかなり往来しやすくなるはず。

以前、グアムで観光客への宣伝事業に関わったことがあるが、観光では、航空会社が最大のパートナーになる。航空会社と良い関係を持たないと宣伝効果がない。ANAに積極的に働きかけて、鳥取県の観光資源を効果的に宣伝することが必要。
- 初めての海外観光客はまず、東京や大阪などの都会へ行くが、次の旅行からは地方へ目を向けるようになる。そのときに情報を届けなければならない。SNS、インスタ、インターネットなどが効果的。マスコミやブロガーなどを招待するツアーもよい。鳥取県を外国人は知らないので、知名度を上げる必要がある。

リピーターは田舎暮らしや日本文化に関心があるが情報がない。それぞれの田舎も素晴らしい魅力は持っているが、その情報をいかにリピーターに届けるか。
- ひとつは、国際線との連結。成田から鳥取へのアクセス方法を伝えるだけでも優先順位があがる。多くのロシア人はインターネットで航空チケットを予約する。ウラジオストク～成田便に連結した鳥取空港までのチケットがスムーズに手に入るのであれば、魅力度があがる。このあたりは、ANAと特典や宣伝の仕方など、よく協議したほうがよい。
- 鳥取県からいろいろ県内の観光地情報はもらうが、具体的なストーリーが欲しい。この名所は何が感動するのか、どうして人気なのか、どんな体験ができるのか。それによって、魅力度がアップする。
- （境港の海鮮丼の映像を見せて）こういった、都会では味わいにくい旬で新鮮な食べ物の写真をブログなどで発信することで、地方ならではの魅力を直に届け、ロシアの人たちの興味を引き出すということではないか。
- こういう映像のような生の情報が文字情報よりもわかりやすい。ぜひ県に働きかけて、情報を届けるように伝えてほしい。
- 例えば、日本では海水浴は7～8月だが、ロシア人は海水温が23度でも泳ぐので、日本ではシーズンが過ぎてもまだ大丈夫。ロシア人をターゲットに考えれば、客のいない日本の海岸で海水浴をすることができるといったツアーが組める。
- リピーターには田舎の方が安いことも魅力。鳥取県はインフラも違和感はなく、落ち着いた雰囲気もよい。DBSクルーズフェリーという直行便があるので、リピーターを受け入れる素地はある。



意見交換会の様子



RUSAPAIにて

#### (4-2) 極東連邦大学テクノパーク

〔目的〕 極東連邦大学は極東最大の総合大学で、平成24年APECの会場として整備された。ロシアにおける極東での産業開発の基礎として、技術提供などを行っている。テクノパークは、特にIT技術やコンピュータ関連の企業への支援を行っており、鳥取県企業との連携について聞き取りを行う。

〔応対者〕 ヴラソフ・エフゲニー国際関係副学長  
ボロヴィコフ・ドミトリー ルースキーテクノパークCEO  
シュチェルバン・ダニル国際関係副学長  
プストヴォイト・エフゲニー 東洋地域研究所校長  
イェルコヴ・キリル ルースキーテクノパーク副CEO  
サベンコフ・ヴィタリー テクノパーク国際アドバイザー  
ソルダトバ・オリガ 通訳

#### 【主な説明内容】

- テクノパークは2016年の第2回東方経済フォーラムでのプーチン大統領の極東地域のスタートアップ支援拠点創設の提唱をきっかけに2017年から極東発展省主導で設置された。経済活動を行う民間企業に対し、技術とノウハウ、共同研究、開発資金などを支援する目的で、極東連邦大学に拠点が置かれることになった。
- 現在は70社以上の民間企業と関係を持っている。IT、ロボット、海洋技術などの企業が多い。また、拠点が大学にあるので、研究に学生がかかわることができ実践経験に役立っているし、企業にとっても人材確保の面がある。  
本学の学生数は約25,000人。そのうち留学生が約4,000人。



意見交換会の様子



極東連邦大学テクノパーク職員と



大学の実験室にて

- 研究テーマは極東内にとどまらず、外国企業とのかかわりもある。例えば、鳥取県の企業がソフト開発を依頼することも可能。仕様さえ正確に伝われば、遠隔でも製品開発ができるし、多くの企業が1か所にあるので、すぐに他分野の企業と連携できるメリットがある。  
すでに国際プロジェクトもいくつか抱えている。鳥取県からも依頼があれば紹介をお願いしたいし、パートナーの関係ができればよい。
- 米子市内のソフトウェア企業がパートナーを探していた。
- テクノパークの研究内容を鳥取県にもお示ししたい。興味のある企業があるかもしれない。パートナーになるには、まずは知ってもらうこと、と考えている。

### (4-3) マツダソラーズ

〔目的〕 マツダとロシアソラーズの合弁会社。2012年からウラジオストクで自動車製造を開始している。ウラジオストクでの主産業のひとつである自動車製造業の現状を確認するとともに、一部の製品の輸送をDBSクルーズフェリーを利用していることから、利用の状況や拡大の可能性について聞き取りを行う。

〔対応者〕 森元繁喜COO（最高執行責任者）  
吉田徹也CFO（最高財務責任者）

#### 【主な説明内容】

- マツダとしては2005年から参入したが、ロシアの自国産業保護の政策や経済不況などのため、日本からの自動車輸入は不安定要素が非常に高いことから、2012年にロシアソラーズとの合弁会社を設立し、ロシア企業として経営している。  
一時期は韓国製の車も扱っていたが、2年後に撤退し、現在はマツダ車3種のみを製造している。そのうち1種は現地仕様。
- 工場のある立地は、港湾に面し、鉄道を敷いているので、輸出入とも条件が非常に良い。ロシア工場はヨーロッパエリアも担当しており範囲が広いが、鉄道を利用するとヨーロッパ市場へ20日ほどで届けることができるので在庫管理がしやすいし、日本に近いので、部品の輸送や職員の行き来が容易にできる利点がある。

#### 【主な質疑】（○は本県）

- マツダがウラジオストクを選んだ理由は何か。
- 2000年ごろ、投資家の注目する国にBRICs（ブラジル、ロシア、インド、中国、南アフリカ）があげられた中で、マツダの得意とする大型車のニーズがマッチする国として選定された。
- ロシアは保護主義なので初めは輸入からスタートしたが、途中から合弁会社に移行して現地生産方式を開始した。  
ロシアの社員は、納得するまでは時間がかかるが、いったん納得すればチームワークが強く、能力や積極性も高い。作業スピードは日本に比べてゆっくりだが、その分、検査ミスは少ないという特徴もある。
- ロシアは中古の日本車が人気と聞いたが新車のニーズがあるのか。
- ロシアは石油が出るので、大型車のガソリン車が主流。EVのニーズは低い。マツダはディーゼルも得意だがロシアでは売り上げが伸びない。

モスクワ付近はヨーロッパ市場なので日本車は少ない。あってもトヨタ、日産が強い。ウラジオストクは中古日本車の市場状態になっている。ロシアの新車より3年落ちの中古日本車のほうに信頼がある。

- 日本からの部品の輸送で、DBSクルーズフェリーを利用する可能性はどうか。
- ウラジオストク工場で扱う製品は広島と山口で生産した部品を宇品（広島港）から送っている。直行便があればよいが、韓国経由の航路になっていて、時間も要しているところ。

昨今、自然災害の規模が大きくなっている。リスク回避の意識はあるので検討の余地はあるが、コストも重要。本社とよく検討してみたい。



意見交換会の様子



マツダソラース社内視察

## 【令和元年11月8日（金）】

### （5-1）シベリア抑留日本人慰霊碑に献花

〔目的〕 ウラジオストク訪問の機会に合わせ、シベリア抑留で犠牲になられた日本人の慰霊碑を訪問し、献花を行った。

場所はウラジオストク市から空港へ向かう途中のアルチョム市バフルーシェフ通りがあり、アルチョム市が管理を行っている。



シベリア抑留日本人慰霊碑に献花

